



2024ジェンダー平等ミーティング

ジェンダー平等ミーティング

令和6年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

2024年6月15日(土)テーマ

「性の多様性について考える」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「性の多様性について考える」

講師：松尾タクミさん（NPO法人 共生社会をつくる性的マイノリティ支援全国ネットワーク）

- ・「性のあり方」（セクシュアリティ）は、いくつかの要素に分けて考えることができる

からだの性 ・ ・ ・ ・ ・ からだの状態からみる性

性自認 ・ ・ ・ ・ ・ 自分の性別をどう認識しているか

好きになる性 ・ ・ ・ ・ ・ どの性別の人を好きになるか

表現する性 ・ ・ ・ ・ ・ 服装やしぐさなど（社会的なもの）

→ 合わさって性のあり方が構成される

- ・みんなそれぞれ少しずつ違う。どれが正しいもない。受け取り方、感じ方もそのときどきによって変わる
- ・人の数だけ性のあり方がある

・「LGBT」

LGB・・・だれをすきになるか

T・・・・自分の性をどう認識しているか

セクシュアルマイノリティの“総称”として使われているが、クエスチョニングやX(エックス)ジェンダー、Aセクシュアル(アセクシュアル)など他にもセクシュアリティはたくさんある

※オカマ、ホモ、レズ、オナベは差別的な用語(正式な用語を!)

・LGBTじゃない人(セクシュアルマジョリティ)

→“ヘテロセクシュアル(異性愛者)”“シスジェンダー(からだの性と性自認が一致)”

★ちゃんと名前が付いていて、多様な性のひとつ

★LGBTとふつう、じゃない

・「SOGI/SOGIE」・・・マジョリティ、マイノリティの立場をこえて全ての人を包括する概念(セクシュアリティは全ての人の性に関わること)

講師の松尾さんに性のあり方や、ご自身のライフヒストリーについてお話しいただいたあと、みんなで感想を交流しました。松尾さんは、質問にも大変丁寧にお答えくださいました。

- どこまでふれていいのか、どういう言葉をかければいいのか・・・
→ トランスジェンダーでもいろんな人がいる。その人と向き合って、その人に合ったコミュニケーションのとり方を考えることが大切
- 改めて自分の性について考えてみて、何をもって、どういうタイミングで自分の性別を認識するのかと思った
- 自分とは異なる立場の人のことを想像することが大切だと思った
- 仲のよかった友人が心に抱えていたものに気づけた感じがした
- カミングアウトの際にどんな言葉をかけられたら嬉しいか
→ 人によってちがうと思うが、世の中の理解が進み、安心して打ち明けられる環境や、安全な情報にふれられる機会が増えれば・・・

- 自分のまわりにいわゆる当事者の方がおられても、気がつかないということもあるのではと思った
- 日本はカミングアウトのハードルが高いのではないか（世代によって理解に差もある）
- LGBTの人は、異性愛者（マジョリティ）の人よりも様々なことに気を配っていると感じたが、諸々の問題は改善されているか
→ 親の世代のことを考えたら、教育機関の中でより情報を得られるようにはなったと思う
- 学生時代、救われたことは
→ 「ありのままで過ごせているおまえはカッコいい」と言われたときは嬉しかった。みんながみんな強いわけではない。誰もがありのままで過ごせるよう、社会が変わってくれたら
- 寄り添うことと理解すること、どちらも大切

- やりたいことよりも、「ばれないように」ということに重きを置かないといけないのは、生きづらいだらうと思った
- 幼少期からの教育、具体的にどうしていけば（社会の認識を変えていくために）
 - 「女の子はピンク」と（無意識に）思って行動したりしていないか、当たり前のように「男」と「女」だけで考えたりしていないか、一人ひとりが意識して、疑問に思うようにしてほしい。もっと本人の「好き」に寄り添っていいのでは。教育もそうだが、些細な声かけを大事にすることで、みんなで変えていける
- 少数派にそこまで配慮する必要があるのかと思うこともあったが、今日で考え方が変わった。
- スポーツとジェンダーについてはどう考えていけばいいか
 - 難しい問題、トランスジェンダーへのヘイトに向かってしまうことも・・・今後はそこを考えていかないといけないと思っている

- ・「性」に関することは他の人になかなか打ち明けにくい、ただ、カミングアウトしてもらえそうな存在になればとも思う
- ・スラックスをはいている女性は受け入れられるが、男性がスカートをはいていると驚く、ということがまだまだある。理解を深めていく必要があると思う

感想

- 「当たり前」の基準を変えていくことがこれから大事になると思った。幼少期から性の多様性についてみんなが学んでいたら、マイノリティを受け入れる、受け入れないという考え方自体がなくなって、もっと生きやすい社会になると思う
- 正しい認識をもつことは重要だと感じた
- 性についての悩みは打ち明けるのが難しいし、こちらから聞くのも難しい。社会の理解が進み、悩みをより打ち明けやすい社会になっていけばと思った
- その人の好み、その人自身を尊重することが大切だと思った
- 公的な場面で必要な手続きなども、より円滑にできるよう改善が必要であると考え

感想

- ・真に理解するのは簡単ではないとしても、否定はしたくないと思った。
- ・履歴書やエントリーシートなどに性別の記入欄が残っているのを目の当たりにしたりすると、まだまだ遅れていると思う
- ・「同じ人間なのに」という話が出たとき、自分の感じていることがようやく言語化されたような気がした。みんな同じ人間であるということを忘れてはいけないと思う
- ・身内だからこそ聞けない、ということもある。今日お話を聞いたことは大変ありがたかった
- ・誰もが安心して暮らせる社会となるよう、自分にできることをしていきたいと思った

感想

- 「一人ひとりの気持ちに寄り添いたい」という思いが強くなった。ジェンダー平等について、より自分事として感じる機会になった
- 当事者の生きづらさについて改めて考えることができた。社会が変わっていく必要があると思った
- 誰にでも悩みはあるが、その悩みが「性別」というだけでこんなにも人生が変わってしまうなんて・・・性別で人生を左右されない世の中となるように、ひとりの人間として行動していきたい
- ジェンダーの問題について、もっと話しやすい社会になればと思った
- 「普通」とは何だろうと考えさせられた。誰もが生きやすい社会となるよう、一人ひとりが考えて行動しなければと思う

感想

- ・自分が気がついていないだけで、マイノリティと言われる人たちは身近にたくさんおられるのかなと思った
- ・社会の認識を変えるためには、学校教育の現場だけでなく、一人ひとりの日々の行動が大切なのだと分かった
- ・多数派に合わせるということが世の中どうしても多いが、少数派をないがしろにしてもいいというわけでは決してない、そのような思いが強くなった
- ・参加者一人ひとりが、今日の話聞いて思ったことなどを周りの友人や家族に伝えることで、理解が広まっていくのではないかな。そうなることを願います